

第3次遠野市馬事振興ビジョン

🐾 令和3(2021)年度 ~ 令和7(2025)年度 🐾



令和3年2月 遠野市産業部畜産園芸課



馬名：ハリー・ベイ（遠野名 ヴィクトワールⅣ）
国内外の競技会で活躍し、本場ヨーロッパの国際馬術競技大会優勝経験のある遠野産馬

目 次

第1章 馬事振興ビジョン策定の意義	1
1 計画策定の背景と趣旨	1
2 計画の位置づけと期間	1
第2章 基本理念とビジョンの体系	2
1 基本理念	2
2 ビジョンの体系	2
3 ビジョンの進捗管理	2
第3章 基本方針に基づく具体的な取組	4
基本方針1 馬の活用推進	4
基本施策 馬関係人口の拡大による活性化	5
基本方針2 体制の強化	7
基本施策 馬事振興の担い手育成	9
基本方針3 生産の振興	11
基本施策 馬産地遠野の堅持	13
基本方針4 遠野馬の里の改革	15
基本施策 自ら行う経営改革の取組	17
基本施策 経営改革に連動した遠野市の支援	18
資料編 第3次遠野市馬事振興ビジョン策定の経過	20

1 計画策定の背景と趣旨

遠野地域は、藩政時代より馬産地として全国に名を馳せてきました。遠野地方の代表的な建築様式である「南部曲り家」は、馬を家族同様に大切に扱う習慣が受け継がれた馬産地ならではの建物です。また、『遠野物語』の1つである「おしらさま」の民話や、豊作を祈願する「馬っこつなぎ」という伝統行事、「やぶさめ」や「馬搬」など、多様な馬事文化が現在も伝えられています。

当市では、馬事全般を貴重な地域資源と位置づけ、日本を代表する乗用馬生産の確立を目指すとともに、まちの賑わいを一層盛り上げることを目的に、平成24年度に「馬事振興ビジョン」を策定し、「馬生産」「教育・福祉」「観光交流」との連携を推進してきました。

「第1次馬事振興ビジョン（平成24～26年度）」「第2次馬事振興ビジョン（平成27～29年度）」に基づく取組により、一定の成果が得られた一方で、人材、資金、施設環境などの課題は未解決であったことから、「第3次馬事振興ビジョン」を策定する前に、しっかりとした基礎を再構築する必要性がありました。そこで、平成30～令和2年にかけては、人材育成・確保、施設の長寿命化を加えた「馬事振興計画」を策定し、これまでの馬事振興ビジョンで進めてきた事業を継承しながら、次のステップアップのための準備を進めてきました。

準備を進める中で分かったのは、藩政時代から続く貴重な地域資源である馬事文化ですが、現在の日常生活では馴染みの薄い存在となり、その価値観が共有されていないこと。そして、馬事振興の中核を担う「遠野馬の里」に求める業務量と、それに応える組織体制に大きな開きが生じているという現状が挙げられます。

「第3次馬事振興ビジョン」では、これまでの取組の中から見えてきた課題解決を念頭に、各施策の見直しを行い、今後の方向性を定めました。馬事振興の要となる「遠野馬の里」を健全化し、様々な分野で馬を活用することで多くの人が遠野の馬事文化に触れる状況を目指します。

2 計画の位置づけと期間



この計画は、「遠野市総合計画」を上位計画とし、農林業の方向性と実現方法を示した「第3次遠野市農林水産振興ビジョン」における、馬事振興に関する施策や事業を具体的に示したものです。これらの上位計画に連動することから、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間を計画期間としています。

また、遠野市総合計画におけるSDGs（持続可能な開発目標）推進の方針を継承し、本ビジョンに関連する複数の開発目標について、その達成に向けた取組を推進します。

1 基本理念

あらゆる分野で活躍する馬の育成

遠野の馬事文化は、農耕馬、やぶさめ、競技馬（乗用馬）など、様々な用途の馬により支えられ、現在に継承されてきました。

多くの人に対して、馬事文化に触れる機会を与えるためには、多様なサービスを提供する必要があります。

用途に応じた適切な馬の供給を実現することが、今後の馬事振興の基盤になることから、「あらゆる分野で活躍する馬の育成」を基本理念と位置づけ、バリエーションに富んだ馬の育成を推進します。

2 ビジョンの体系

本ビジョンでは、「馬の活用推進」、「体制の強化」、「生産の振興」という3つの基本方針を定め、それに基づく施策、詳細な事業を位置づけています。また、これらの事業実施には「遠野馬の里」が大きく関与するため、市と遠野馬の里が協働で検討する事項についても明記しています。

しかし、遠野馬の里の現在の職員体制、経営状況では、サービスの充実化や新たな活動を実施するのは困難であり、まずはこの改善が必要です。このため、遠野市畜産振興公社の理事数名で構成する「馬の里改革プラン懇談会」を立ち上げ、新たなステージに向けた経営見直しについて協議し、その方向性が示されました。

遠野馬の里の健全化に向けた取組は、遠野市の馬事振興上、重要な取組の1つであることから、「遠野馬の里の改革」を4つ目の基本方針として位置づけ、その進捗を管理していきます。

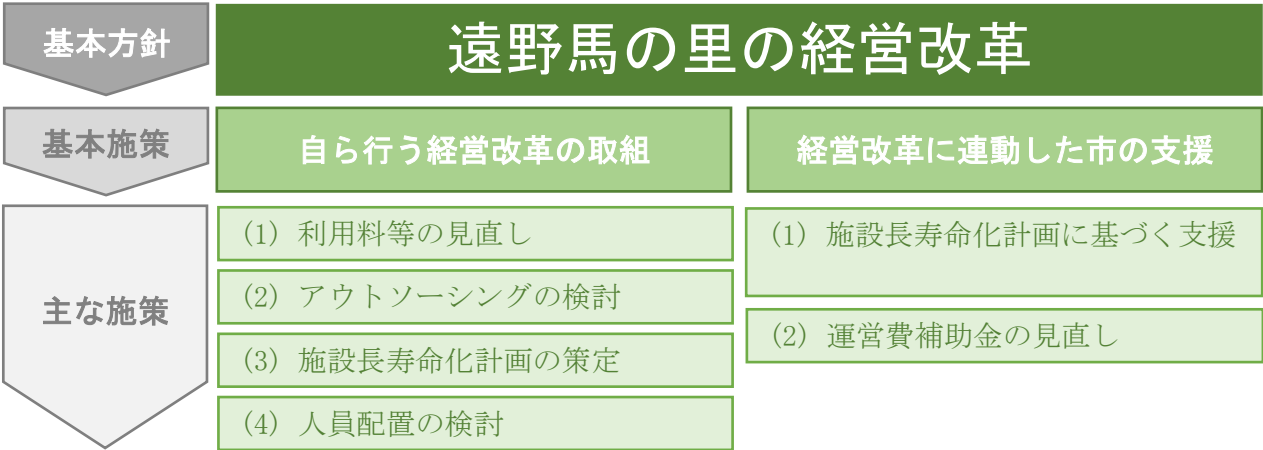
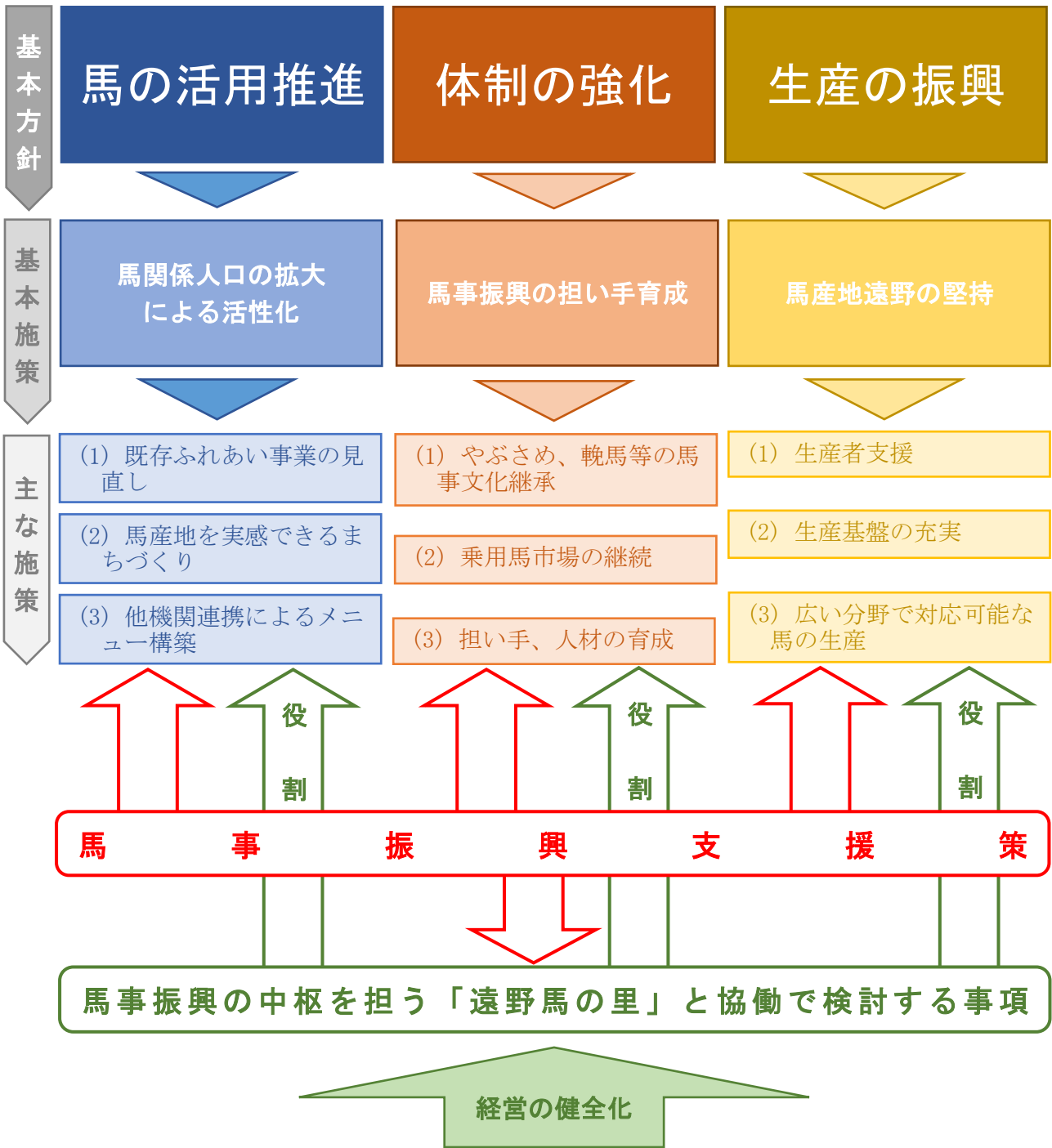
3 ビジョンの進捗管理

本ビジョンの達成度合いを確認するため、各方針における指標値を設定しました。

さらに、本ビジョンにおける新たな取組として、一部の指標値については**事業見直しの基準値**も設定しました。指標値に乖離が生じるということは、ビジョンが目指す方向性とその時代の方向性に乖離が生じていることを意味します。基準値未達成となった時点で即座に施策の見直しを行うことにより、常に現状に沿った馬事振興施策を実現できるように努めます。

また、施策の見直しによって、支援の縮小を検討せざるを得ない場合もあります。馬事関係者が常に現状を把握し、馬事振興に取り組むことが期待されます。

図1 第3次馬事振興ビジョン体系図



基本方針1 馬の活用推進

馬とのふれあい事業の利用料金について、価格の妥当性を検証し、必要経費を踏まえた利用料金への見直しを進めます。また、利用者ニーズを踏まえた既存メニューの見直しを行い、いつでも馬と自由に触れ合うことができるような場所の構築を検討します。

馬とのふれあい事業は、教育、観光、福祉など、その用途に応じて様々な分野と連携することが必要です。事業構築に際して、関係機関による協議の場を設け、その意見を反映させます。

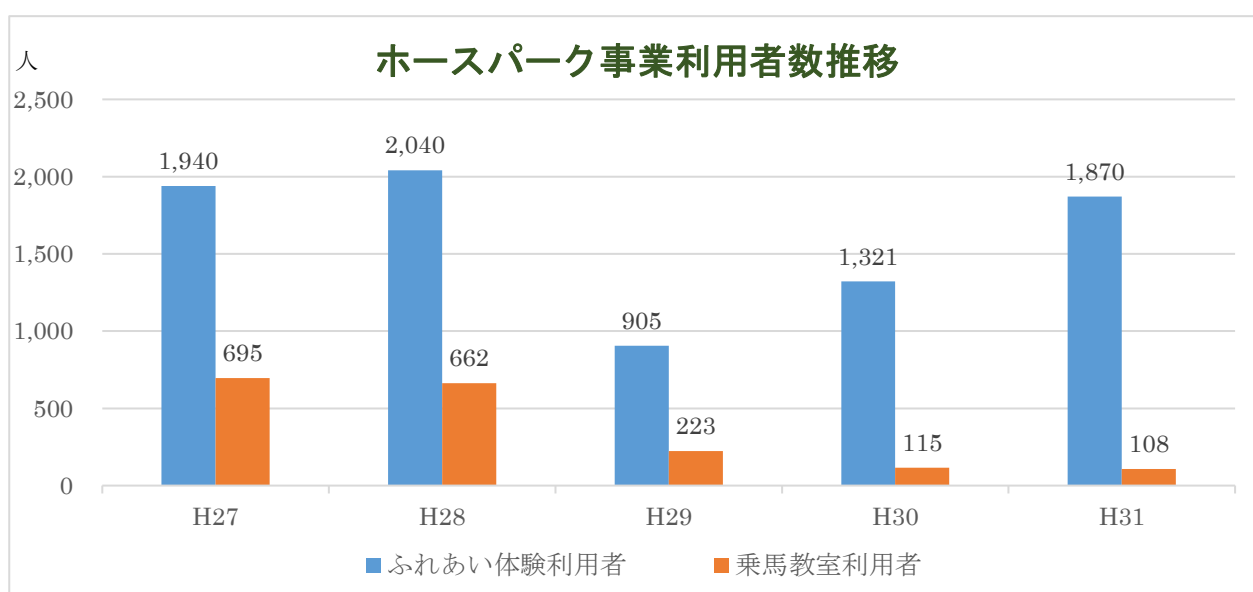
【現状と課題】

遠野馬の里では、市内外の保育園、小学校及び障がいのある方々の受け入れや被災地支援活動、乗馬教室などに取り組み、馬とふれあう機会を提供しています。

また、南部氏入部行列、馬力大会、馬車運行、やぶさめなど、様々なイベントで馬を提供しており、観光客へのもてなし、交流人口の拡大に寄与しています。

しかし、遠野馬の里の業務は、ふれあい事業のほか、繁殖のための種付け業務、活用のための育成調教など多岐にわたっており、H29年度からは職員数が確保できないため、ふれあい事業の受入日を制限している状況です。また、遠野馬の里の施設見学は自由となっていますが、見学者への十分な対応ができていない状況です。

現在行われているふれあい事業に対して、地域資源として観光メニューに加えることや、ホースセラピーに医療分野からの助言を求めることなど、複数の意見が寄せられています。既存メニューの見直しに際し、関係する団体との連携を深め、これらの意見を反映させていく必要があります。



基本施策 馬関係人口の拡大による活性化

主な施策

- (1) 既存ふれあい事業の見直し
- (2) 馬産地を実感できるまちづくり
- (3) 他機関連携によるメニュー構築

【主な施策】

(1) 既存ふれあい事業の見直し

- ・ 遠野馬の里で実施している現在のふれあい事業について、その内容、料金のほか、案内表示なども見直し、より多くの人気が気軽に利用できる環境を整備します。
- ・ 馬とのふれあい事業に対する新たな補助制度を検討し、対象を民間団体に拡大することで、新たなふれあい事業の企画を募り、多様なサービスの提供を促します。

(2) 馬産地を実感できるまちづくり

- ・ いつでも馬にふれあうことができる場所を構築し、馬を身近な存在にします。
- ・ 幼少期から馬の世話を体験できるような学びの場所の構築を検討します。
- ・ 遠野を訪れた方々の観光ルートの一環に遠野馬の里を含めるなど、市内外への馬事振興の情報発信に努めます。
- ・ 馬力大会、やぶさめ競技大会など、馬事イベントを継続開催し、交流人口の拡大と馬事文化の伝承を図ります。

(3) 他機関連携によるメニュー構築

- ・ 馬とのふれあい事業は、教育、観光、福祉など様々な分野で実施されています。ふれあい事業について様々な意見を反映させ、課題に対する役割を明確にするため、関係者による協議の場を設けます。

【遠野馬の里と協働で検討する事項】

- ・ 既存のふれあい事業に関する、内容、実施時期、利用料金の精査。
- ・ いつでも自由に馬を見学でき、ふれあうことができる場所の構築。
- ・ 来場者向けの案内表示板の設置。
- ・ 関係団体による協議の場を設け、その意見をふれあい事業の見直しに反映。

【市の事業】

事業名	事業内容	事業期間
馬とのふれあい創出事業 (新規)	市内で実施する、馬を活用したイベント開催経費に対して支援を行うことで、馬とのふれあい機会を増やし、多様なサービスの提供を促進します。	R3~7
まちなか馬車運行支援事業 (馬とのふれあい創出事業へ統合)	幅広い年齢層を対象に、気軽に馬とふれあえる観光振興手段として実施を奨励します。 「馬とのふれあい支援事業」の対象事業とし、幅広く実施主体を募ります。	R3~7
遠野馬の里運営費補助金 …ホースパーク事業分 (再編)	馬愛好者に親しまれるホースパークの管理経費について、支援を継続します。 運営費補助分は、その一部を「馬とのふれあい支援事業」の財源として再編します。	R3~7

【指標値】

指標名	単位	実績		目標値				
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
(市総合計画まちづくり指標) ふれあい事業 利用者数	人	1,978	未定	2,000	2,000	2,100	2,100	2,200

事業見直し基準値の設定：ふれあい事業利用者数 1,128人

基準値設定根拠：ふれあい事業受入制限開始年度で、利用者が激減した H29 年度実績値未達成時の対策：馬とのふれあい創出事業補助制度を見直します。



基本方針 2 体制の強化

やぶさめ競技大会や乗用馬市場など、馬事イベントに対する支援の継続により内容の充実化を図り、市内外への情報発信に努めます。

さらにこの取組を通じて、若い世代に馬事文化や乗用馬育成に対する関心を持たせ、この貴重な地域資源を絶やさぬよう、人材の育成に努めます。

【現状と課題】

遠野の馬事文化を象徴する馬力大会、やぶさめ競技大会など、大きなイベントが実施され、市内外から多くの観光客が訪れており、地域の活性化が図られています。

また、国内で2か所、本州では唯一となる乗用馬市場も開催されており、血統に優れた日本スポーツホース種の若駒を求め、全国から購買者が訪れています。

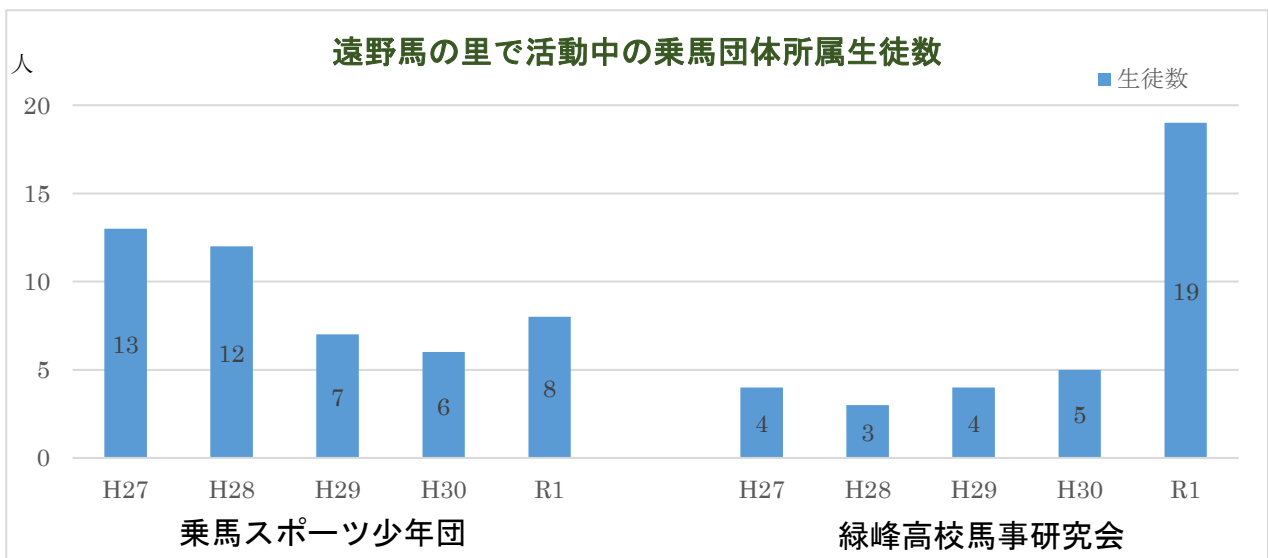
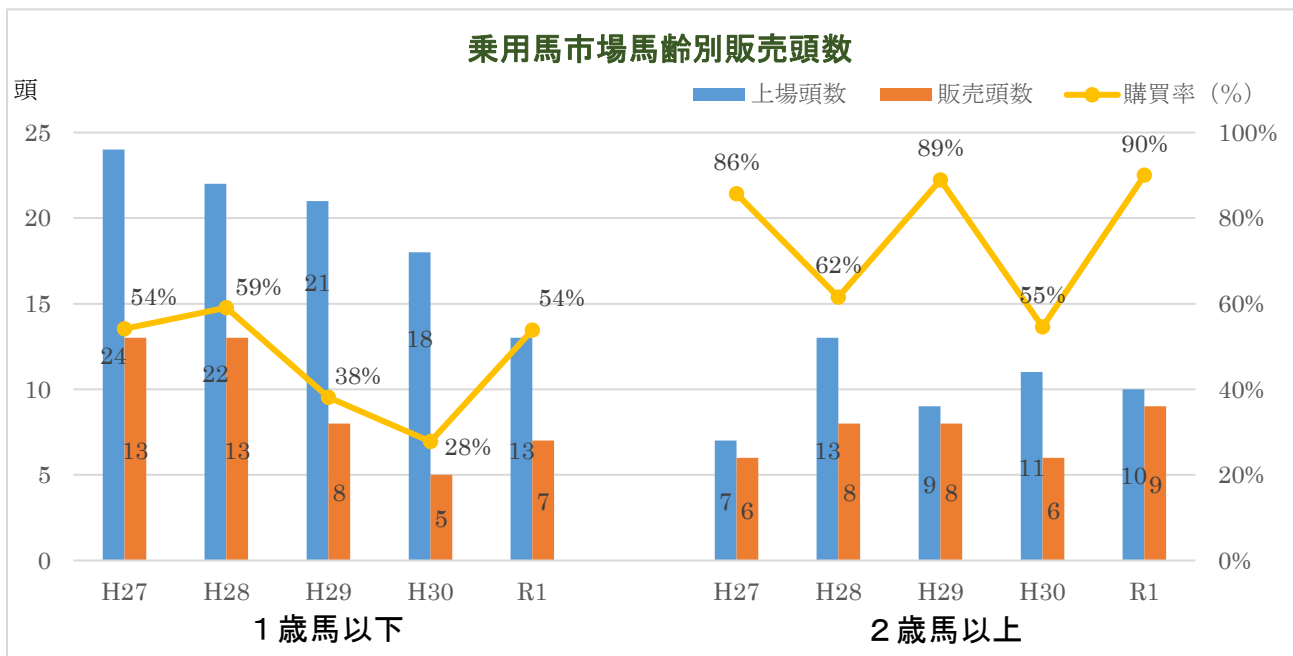
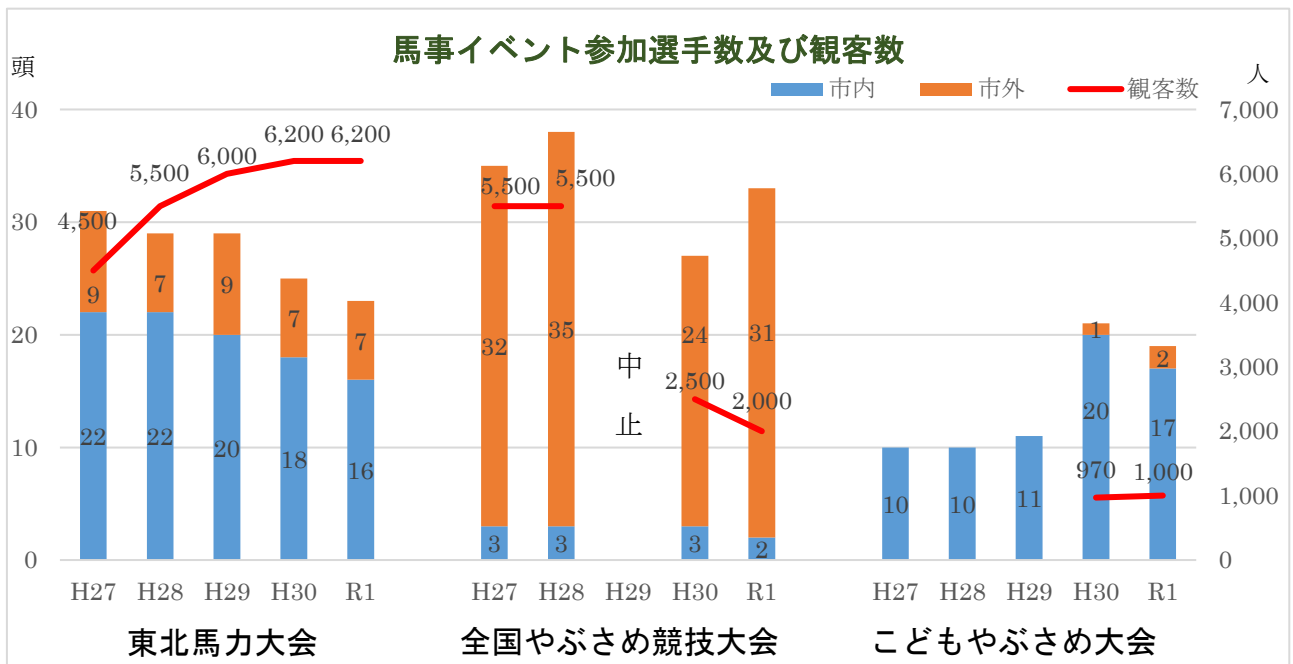
毎年5月5日に開催されてきた「こどもやぶさめ」については、平成30年1月から実行委員会として組織化され、同大会のほか、定期的な練習も開催されるようになるなど、馬事文化継承に向けた取組が進んでいます。しかし、子供の練習に適した馬の調達が不十分であり、騎乗して弓を練習できるような場所の確保も含めた検討が必要となっています。

遠野馬の里において、乗馬スポーツ少年団、遠野緑峰高等学校馬事研究会が週1回のペースで活動を行っており、馬の手入れを含めた馬術の習得に励んでいます。練習の成果を発表する場を構築するなど、多くの市民に周知するような機会を設け、新たな担い手確保につなげていくことが必要です。

遠野で生産された乗用馬は国内外での優勝実績もあり、馬術界における遠野の知名度は高い位置にあります。そのため、遠野産競技馬の証である「と烙印」を持つ馬は全国各地に引き取られ、地元には残っていない状況です。さらに市内で馬術競技を観覧する機会もほとんどないため、競技馬としての知名度が、市民にはあまり知られていない現状です。

遠野には、能力の高い乗用馬を生産してきた実績があり、幼少期から馬とふれあい、乗馬技術を学ぶ環境もあります。遠野生まれ、遠野育ちの馬で、遠野で乗馬を学んだ選手が馬術大会へ出場することを実現できるような、あらゆる人材を育成することが重要です。





基本施策 馬事振興の担い手育成

主な施策

- (1) やぶさめ、輓馬等の馬事文化継承
- (2) 乗用馬市場の継続
- (3) 担い手、人材の育成

【主な施策】

(1) やぶさめ、輓馬等の文化継承

- ・ 全国やぶさめ競技大会、東北馬力大会の継続開催に向け、関係機関・団体との連携のもと、必要な支援を行います。

(2) 乗用馬市場の継続

- ・ 1974（昭和47）年から続いている遠野市乗用馬市場の継続開催により、馬の生産維持、全国発信に努めます。
- ・ 国内の乗用馬市場として、遠野市以外では唯一の開催となる北海道乗用馬市場との交流を行い、より良い乗用馬の育成、市場開催を実現できるように努めます。

(3) 担い手、人材の育成

- ・ 技術の向上、普及を目的とした馬事関係者の活動に対する支援を行います。
- ・ 遠野生まれ、遠野育ちの馬による馬術大会出場を実現できるよう、生産、調教、乗馬技術向上のための人材育成に努めます。

【遠野馬の里と協働で検討する事項】

- ・ 馬事イベントへの、馬の提供のほか、馬を扱うスタッフとしての協力。
- ・ 北海道乗用馬市場との交流など、外部交流から得られた情報や取組を参考とする、遠野市乗用馬市場の魅力向上。
- ・ 馬術大会出場の実現に向けた、人材と馬の育成。



【市の事業】

事業名	事業内容	事業期間
全国やぶさめ競技大会支援事業 (馬とのふれあい創出事業へ統合)	やぶさめ文化の継承のため継続して支援し、観光交流人口の拡大、やぶさめ技術、馬の育成意欲向上を目指します。	R3～R7
東北馬力大会支援事業 (継続)	馬搬、馬耕などの技術継承のため継続して支援し、観光交流人口の拡大、鞍馬技術、馬の育成意欲向上を目指します。	R3～R7
馬産地遠野活性化事業(継続) …乗用馬市場支援分	国内有数である馬の生産継続のため、国内2カ所でしか開催されていない乗用馬市場の継続開催に向け支援し、観光交流人口の拡大、調教技術、馬の育成意欲向上を目指します。	R3～R7
馬事文化人材育成支援事業 (新規)	貴重な馬事文化の技術向上、担い手育成を目的とする、研修、派遣、物品購入等への支援を行います。	R3～R7

【指標値】

指標名	単位	実績		目標値				
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
東北馬力大会出場選手数	人	23	—	25	25	25	25	25
全国やぶさめ競技大会出場選手数	人	33	—	30	30	30	30	30
こどもやぶさめ出場選手数	人	19	—	20	20	20	20	20

事業見直し基準値の設定：東北馬力大会出場選手数 11人

全国やぶさめ競技出場選手数 16人

こどもやぶさめ出場選手数 10人

基準値設定根拠：R 1年度実績値の半分

未達成時の対策：大会の在り方（時期、規模、参集範囲等）を再検討します。

基本方針 3 生産の振興

遠野の貴重な地域資源である馬の生産頭数が年々減少傾向にあります。繁殖から育成まで、その過程に応じた支援を行い、安定した生産基盤の構築に努めます。

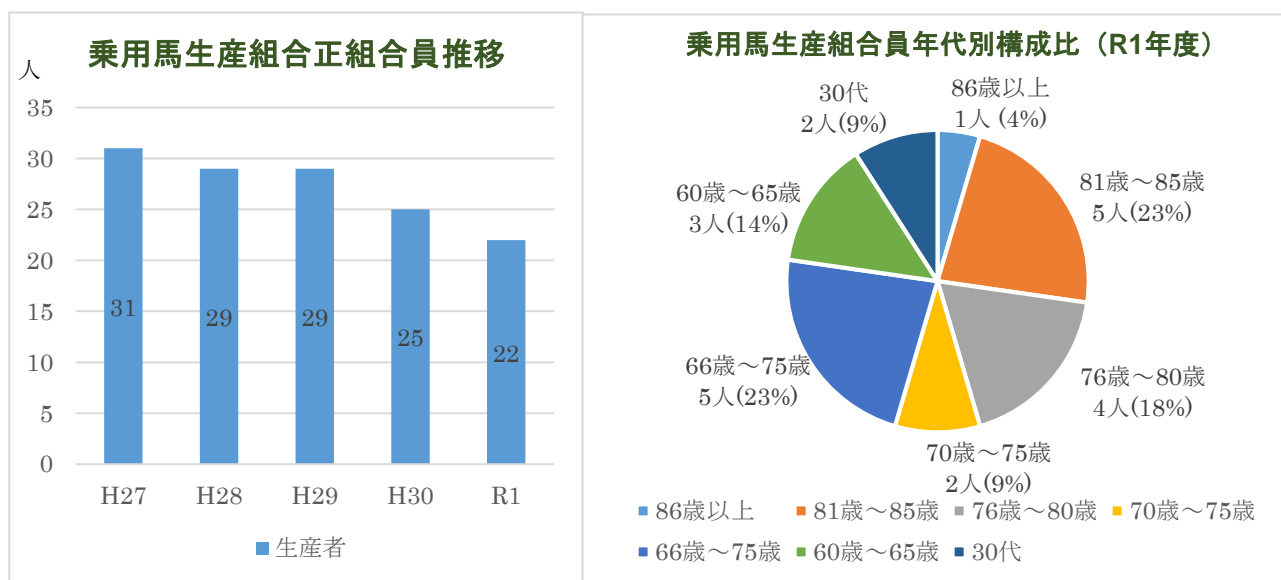
馬事振興の実施には、その用途に応じた様々な馬が必要となります。関係者協議により今後必要とする馬の育成方針を策定し、それぞれの役割の明確化、共有化を図ります。

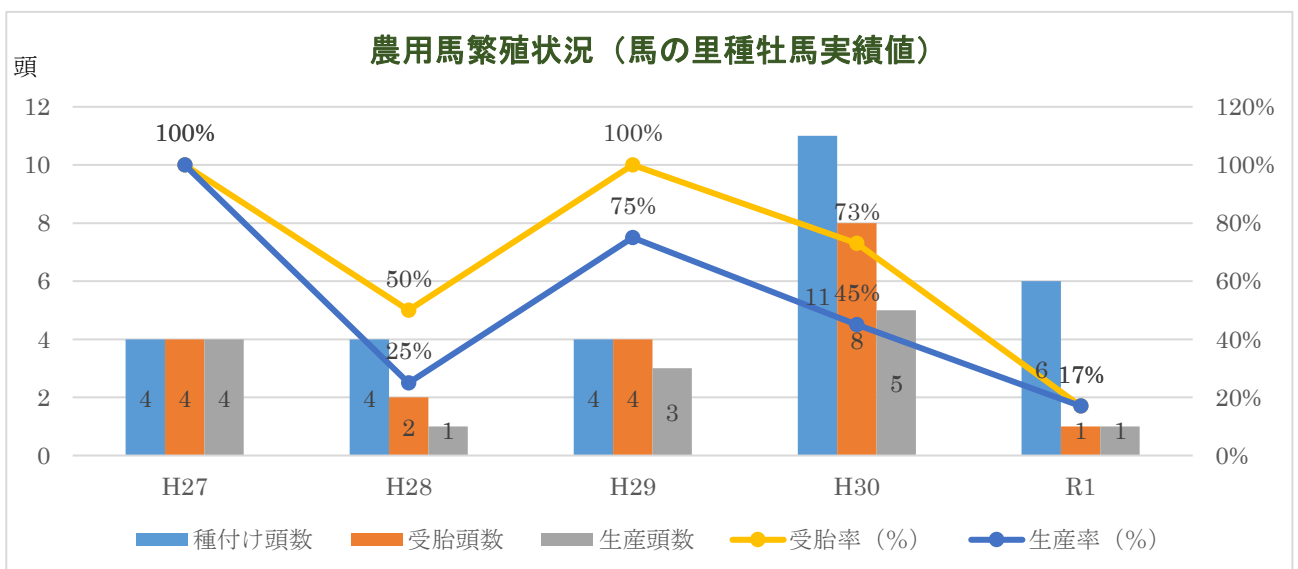
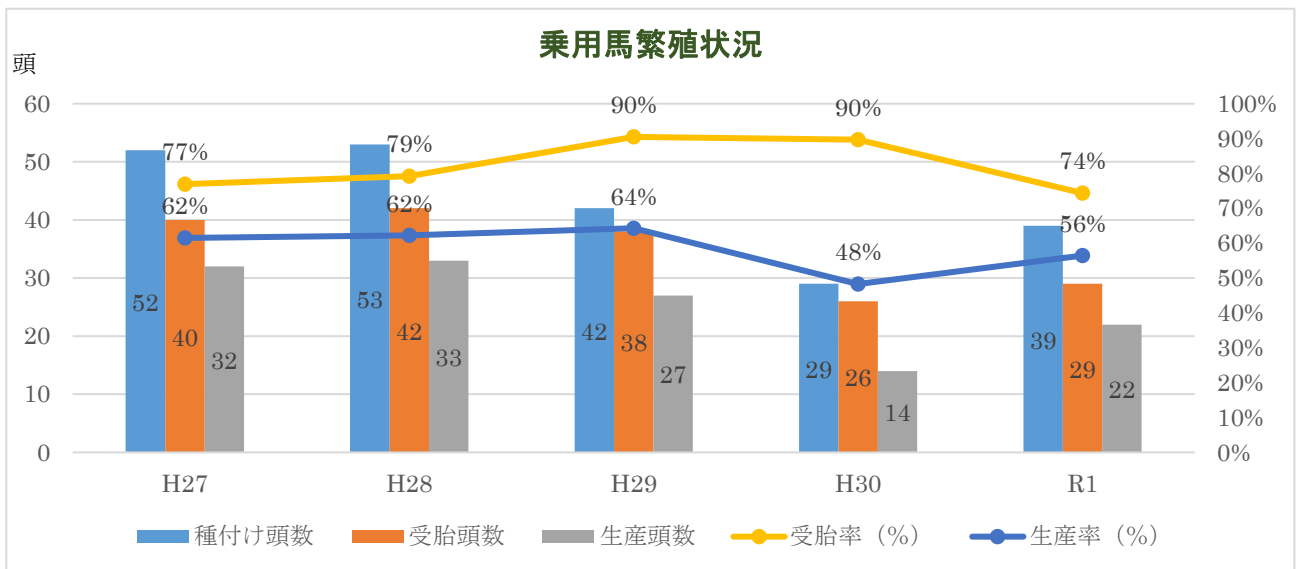
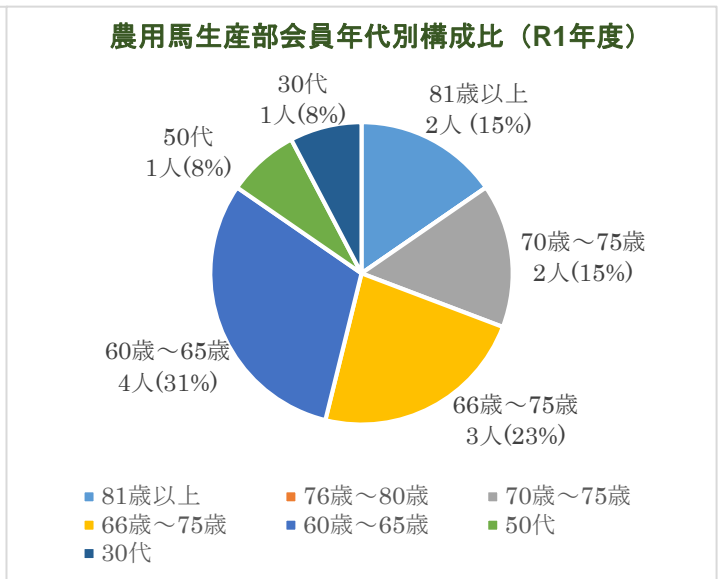
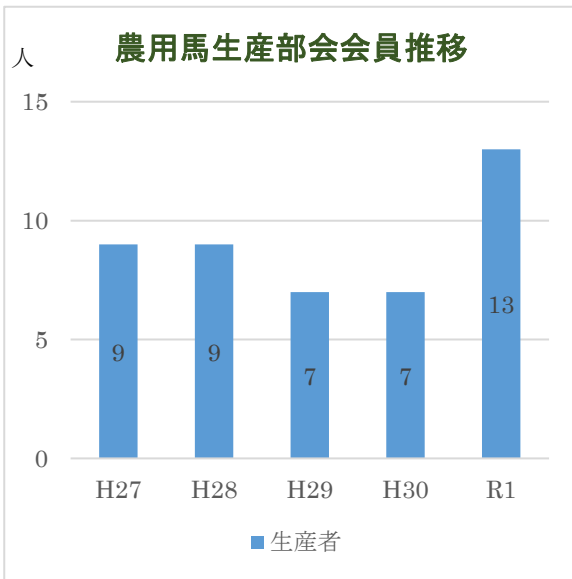
【現状と課題】

遠野馬の里では優良な血統を持つ種雄馬を所有し、市内生産馬の繁殖改良に協力しています。また、凍結精液の製造、活用実績も増え、中央団体と連携した研修を遠野馬の里で実施するなど、「日本の馬の精液バンク」を目指した取組は順調に推移しています。しかし、生産者の高齢化と新たな担い手不足により、馬の生産頭数は減少傾向にあり、馬事文化の継承の根幹となる馬の確保策が課題となっています。

優良な血統を持つ純粋なスポーツホース種の生産に特化してきたため、乗用馬と農用馬に対する施策に偏りが生じています。馬の種類を問わず、全ての馬を対象にした馬事振興施策に改め、馬の確保を図る必要があります。

また、馬の活用については、その用途に応じて品種や性格を選ぶ必要があります。今後市内で必要となる馬の生産、育成方針を関係者で共有し、計画的に育成を進めることが必要です。





基本施策 馬産地遠野の堅持

主な施策

- (1) 生産者支援
- (2) 生産基盤の充実
- (3) 広い分野で対応可能な馬の生産

【主な施策】

(1) 生産者への支援

- ・ 生産者の負担を軽減するため、既存の支援策は継続を基本とし、その内容の拡充や運用の見直しによる支援効果の向上を図ります。
- ・ 新規参入者への繁殖雌馬導入支援など、参入しやすい環境の構築を図ります。

(2) 生産基盤の充実

- ・ 優良血統馬の確保、精液の確保に努め、馬の品質向上を目指します。
- ・ 凍結精液製造や、人工授精技術等の向上により「日本の馬の精液バンク」を実現し、市内生産者がその恩恵を得られるように努めます。

(3) 広い分野で対応可能な馬の生産

- ・ 遠野で生まれた馬を用いて、あらゆる馬事振興策に取り組めるよう、「(仮称) 遠野産馬生産育成方針」を策定し、関係者で統一した方針に基づいた馬の生産、育成を目指します。
- ・ 市内で様々な種類の馬を揃えるため、必要な支援策を講じます。

【遠野馬の里と協働で検討する事項】

- ・ 「日本の馬の精液バンク」実現に向けた技術の研鑽。
- ・ 中央馬事団体との連携による、遠野馬の里への支援確保。
- ・ 「(仮称) 遠野産馬生産育成方針」と連動した、「遠野馬の里所有馬管理計画」の策定。
- ・ 様々な用途に対応できる馬の調教の実現。



【市の事業】

事業名	事業内容	事業期間
乗用馬生産振興対策事業 (継続)	遠野市乗用馬市場で主取りした乗用馬を遠野馬の里へ預託し、調教を施す場合、その預託料に対して補助を行い、生産者の飼養管理費の軽減を図ります。	R3～R7
農用馬種付け支援事業 (花巻農業協同組合 遠野地域農用馬生産部会)	農用馬生産組合との協力により、農用馬純血種や輓交種の生産を目的とする種付けに対して補助を行い、生産頭数の拡大を図ります。	R3～R7
農用馬子馬生産奨励金 (拡充・継続)	農用馬、多用途に活用できる馬の確保を目的に、農用馬純血種や輓交種の子馬を生産した者に対して、奨励金を交付します。	R3～R7
馬産地遠野活性化事業(継続) …生産基盤整備分	馬の品質を高め、馬産地遠野の全国へのPR、地域の活性化を図るため、優良血統種雄馬飼養経費に補助を実施します。	R3～R7
繁殖雌馬導入支援事業 (新規)	馬の生産を目的とする新規参加者を対象に、繁殖用雌馬導入経費に対する補助を実施します。	R3～R7

【指標値】

指標名	単位	実績		目標値				
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
乗用馬生産組員数	人	22	21	20	19	19	19	18
農用馬生産部会員数	人	13	14	14	14	14	14	13
(市総合計画まちづくり指標) 馬生産頭数	頭	23	18	18	18	18	18	18
種付け頭数	頭	42	50	45	45	45	45	45

事業見直し基準値の設定：馬の生産頭数 9頭

基準値設定根拠：R 2年度実績値の半分

未達成時の対策：頭数減少の要因を精査し、必要な支援を検討します。

市場の需要が減少したと判断する場合は、支援の削減も検討します。

基本方針 4 遠野馬の里の改革

遠野馬の里が、自ら経営の見直しについて検討し、その実践による業務の改善に努めます。

遠野馬の里に対する遠野市からの補助金について、新たな基準を策定することにより、遠野馬の里の営業活動によって収益が増大するようにします。

【現状と課題】

遠野馬の里が整備されてから 20 年以上が経過し、乗用馬を取り巻く環境が変わっているほか、施設の老朽化、職員の減少など、経営上の様々な課題を抱えている状況です。現在、老朽化した施設等の改修費や、ホースパーク事業管理費、職員人件費など、運営費の一部に対し、当市が支援しています。

遠野馬の里が利用者から受領する利用料金等について、一定の条件のもとで減免措置を適用しているため、採算が取れていない事業もあります。これは、経営を圧迫する要因でもあり、適正な利用料金への改定作業が急務となっています。

また、当市からの補助金についても、遠野馬の里の経営努力を促すような支援の在り方を検討し、新たな交付基準を設ける必要があります。

遠野馬の里の職員構成

令和 3 年 1 月現在

年代	管理・総務		ホースパーク		乗用馬育成		繁殖		競走馬施設管理		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20代				1							1
30代			1								1
40代							1				1
50代	1 (兼)	1 (兼)			2		1		1		6
職員数	2		2		2		2		1		9

※ 兼務職員は畜産振興公社馬の里部門と放牧部門の兼務

施設修繕計画 (H30～R2) に基づく修繕実施状況

No.	施設名	修繕内容	改修状況		
			H30	R1	R2
1	覆馬場	外壁工事等	○		
2	乗用馬競技馬場	木柵交換	○		
3	乗用馬厩舎馬洗い場	ボイラー交換	○		
4	クラブハウス	渡り廊下、宿泊棟解体	○		
5	クラブハウス	重油タンク廃止、シャワー修繕		○	
6	受変電設備	器具交換		○	
7	その他	浄化槽修繕		○	
8	ホースパーク厩舎	放牧地柵改修			○
9	クラブハウス	ウッドデッキ交換			○
10	倉庫	シャッター交換	未 実 施		
11	種雄馬厩舎	レール、扉交換等			
12	乗用馬育成厩舎 1	レール、建具交換等			
13	乗用馬育成厩舎 2	内部叩き修繕、建具交換等			
14	堆肥場	舗装、排水修繕等			
15	資材庫	シャッター交換			
16	調整池	砂搬出			



基本施策 自ら行う経営改革の取組

主な施策

- (1) 利用料等の見直し
- (2) アウトソーシングの検討
- (3) 施設長寿命化計画の策定
- (4) 人員配置の検討

【主な施策】

- (1) 利用料等の見直し
 - ・ 収支均衡を図るため、収入源となる利用料等を見直すとともに、徹底した経費の削減を実施します。
- (2) アウトソーシングの検討
 - ・ 職員の労務負担軽減のため、施設内環境整備等のアウトソーシングを検討します。
- (3) 施設長寿命化計画の策定
 - ・ 20年以上経過する施設の経年劣化を改めて調査し、今後の経営方針を見据えた「施設長寿命化計画」を策定します。
- (4) 人員配置の検討
 - ・ 「馬の里改革プラン懇談会」の方針を踏まえ、事業に対する職員従事体制を調整し、その進捗管理に努めます。

【遠野馬の里と協働で検討する事項】

- ・ サービスメニューごとに収支構造を分析し、収支均衡となる適正な利用料金への改定。
- ・ 各事業の持続可能な適正規模を見極めるなど、経費削減の徹底。
- ・ アウトソーシング可能な業務内容の精査と、その実現。
- ・ 馬の里改革プラン懇談会の方針に基づく、今後の利活用を見据えた「施設長寿命化計画」の策定。
- ・ 限られた職員で成果をあげるため、事業優先順位の共有と、実施体制の構築。



基本施策 経営改革に連動した遠野市の支援

主な施策

- (1) 施設長寿命化計画に基づく支援
- (2) 運営費補助金の見直し

【主な施策】

(1) 施設長寿命化計画に基づく支援

- ・ 「施設長寿命化計画」との適合性、今後の利用状況、修繕規模を加味し、予算の範囲内で支援を行います。

(2) 運営費補助金の見直し

- ・ 運営費補助金の算定基準を見直し、遠野馬の里の自主性に応じて収益が増えるような支援の在り方を検討します。

【遠野馬の里の役割】

- ・ 各サービスの提供において目標値を定め、実現に向けた営業活動を行います。
- ・ 自主財源確保のため、預託馬頭数を最大値まで増やすように努めます。

【市の事業】

事業名	事業内容	事業期間
遠野馬の里運営費補助金 (継続・見直し)	乗用馬の繁殖改良、育成調教の拠点施設であり、遠野の馬産の中核を担う遠野馬の里運営事業に要する経費に対し、明確な算出基準に基づき補助を行います。	R3～R7
馬事振興施設長寿命化支援事業 (継続)	遠野市の馬事振興拠点施設の保全と利用者の安全を確保するため、「施設長寿命化計画」に基づき、修繕費用に対して、予算の範囲内で補助を行います。	R3～R7



【指標値】

指標名	単位	実績		目標値				
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
遠野馬の里決算 自主事業収入額	千円	20,970	未定	21,000	21,500	22,000	22,500	23,000

※ 自主事業収入額は、競走馬施設に係る収入を除いた自主事業に収入額を計上しています。

事業見直し基準値の設定：遠野馬の里決算 自主事業収入額 20,000 千円

基準値設定根拠：R 1 年度実績値を保持

未達成時の対策：収入額減少の要因を精査し、事業の在り方を検討します。また、需要が少ない事業については廃止も検討し、併せて運営費補助金（労力減少に応じた人件費分）の削減も検討します。

事業見直し基準値の設定：遠野馬の里決算 当期経常増減（収支）額 黒字

基準値設定根拠：直近5カ年の平均値が5,428千円であるため、最低限収支黒字を保持することを目標とします。

未達成時の対策：赤字となった要因を精査し、必要に応じて外部団体との提携を探るなど、民間活力の導入について検討を進めます。



荒川高原で草を食む放牧馬と早池峰山（2018年6月）

【策定経過】

年 月 日	事 項
令和2年 5月30日	令和2年度遠野市畜産振興公社総会 遠野馬の里の新たなステージに向けた検討のため「馬の里改革プラン懇談会」を立ち上げることが決定。 馬事振興施策の中枢を担う馬の里の方針を「馬事振興ビジョン」に反映させることを確認。
6月30日	第1回 馬の里改革プラン懇談会 馬事全般における現状と課題、その対応策について情報を共有。
7月29日	第2回 馬の里改革プラン懇談会 業務の部門毎に、事業の拡充、縮小の方向性を検討。
8月24日	第3回 馬の里改革プラン懇談会 過去に実施したアンケート結果を踏まえ、部門別経営方針を策定。
9月24日	第4回 馬の里改革プラン懇談会 部門別経営方針の精査。
10月27日	第5回 馬の里改革プラン懇談会 乗用馬市場への出席に合わせ、施設老朽化の現状を確認。
11月16日	第12回 地域経営会議 ビジョンの基本方針、構成等について確認。
12月15日	第6回 馬の里改革プラン懇談会 施設長寿命化計画、施設管理運営手法について協議。
12月24日	第6回 遠野市乗用馬生産組合理事会 第3次馬事振興ビジョン（案）に対する意見聴取。
令和3年 1月25日	第14回 地域経営会議 第3次馬事振興ビジョン（案）について協議。
1月28日	遠野市畜産振興公社役員懇談会 第3次馬事振興ビジョン（案）に対する意見聴取。

【馬の里改革プラン懇談会委員名簿】

(50音順)

所 属	委 員 名	備 考
花巻農業協同組合	川 野 政 光	農業施策、農家経営の視点
農用馬生産部会	菊 池 茂 勝	農用馬生産者の代表
遠野市畜産振興公社	菊 池 昌 弘	経営状況の分析
遠野馬の里	千 葉 祥 一	乗用馬生産、育成の代表
遠野市畜産振興公社	古 川 憲	畜産振興公社総括



石羽根牧場 越冬放牧地にて（2003年2月）

本ビジョンに掲載している写真は、馬を専門分野として撮影している写真家で、遠野市乗用馬生産組合員でもある高草操さんからご提供いただいております。

第3次遠野市馬事振興ビジョン

発行／令和3年2月発行

編集／遠野市産業部畜産園芸課

〒028-0592 遠野市中央通り9番1号

TEL：0198-62-2111 FAX：0198-60-1523

URL：<https://www.city.tono.iwate.jp/>
